

(様式第1号)

平成30年度第1回 芦屋市立図書館協議会 会議録

日 時	平成30年6月8日(水) 14時～15時30分
場 所	芦屋市立図書館本館2階集会室
出席者	委員長 笹倉 剛 委員 枝元 益祐 委員 川口 恭子 委員 熊本 潤子 委員 布谷 忠司 委員 水谷 孝子 委員 山田 耕治 事務局 田中社会教育部長, 丸尾館長, 山内管理係長 寺田利用サービス係長, 管理係堂馬
欠席者	松川 圭子
会議の公開	■ 公開
傍聴者数	0人

1 会議次第

- ① 委員委嘱式
- ② 平成29年度事業報告
- ③ 図書館本館大規模改修工事について
- ④ その他

2 提出資料

平成30年度第1回芦屋市立図書館協議会 資料

3 審議経過

(協議会開会)

(田中社会教育部長から山田委員に任命書を手渡し。)

(田中社会教育部長あいさつ)

(笹倉委員長あいさつ)

(各委員あいさつ)

田中社会教育部長公務のため退席

(丸尾館長) これより協議会の進行は笹倉委員長にお願いいたします。

(笹倉委員長) 失礼します。それでは協議会に入る前に昨年度まで委員長代理をされていた松本委員が辞任されましたために、委員長代理をここで決めたいと思います。私が指名することにご異議はございませんでしょうか。

(「異議なし」の声起こる。)

(笹倉委員長) それでは、ご異議なしと認めまして、委員長代理は山田委員にお願いいたします。それでは山田委員、ご挨拶をお願いいたします。

(山田委員長代理あいさつ)

(笹倉委員長) 次に、会議の公開についてお諮りいたします。「芦屋市情報公開条例第19条」に基づきこの会議は原則公開といたします。特にご意見がなければ公開とさせていただきますこととなりますが、ご異議はございませんでしょうか。

(「異議なし」の声起こる。)

(笹倉委員長) ご異議がないようですので、この会議は公開とさせていただきます。「芦屋市情報公開条例第7条」に公文書の公開義務が規定されております。この規定に非公開情報の規定があり、それにより判断することとなりますが本日の協議会の内容は原則公開と考えております。尚、公開内容についてはご発言頂いた委員のお名前も含むものとなっております。芦屋市のホームページ上で公開するため録音をさせていただきます。ご了解をお願いいたします。本日は、特に協議会の傍聴をされる方はおられますか。

(丸尾館長) はい。今のところございませんが、傍聴の方がこの後お見えになられましたら諮らせていただくことになるかと思っておりますので、よろしくお

願いいたします。

(笹倉委員長) その時はまた、ご報告いただきたいと思います。よろしくお願
いします。

[事務局より平成29年度事業報告についての説明]

(笹倉委員長) 只今、平成29年度の事業報告についての説明を頂きました。

それについて何かご質疑、ご意見はございませんでしょうか。

(水谷委員) 「n i w a - d o k u」には大変興味があります。利用者もすご
く増えて、大きな期待を寄せられているのだなと思って嬉しいのですが。

開催時期は、去年は秋でしたね。

(丸尾館長) 去年は秋でした。

(水谷委員) 11月。

(丸尾館長) はい。

(水谷委員) 今年は5月にされていますが、そこにはみなさんのご意見やご判
断はあったのでしょうか。

(丸尾館長) 判断については、夏の暑い時期、冬の寒い時期ではなく、気候の
穏やかな時期を選びました。前年度のように時期を同じ秋にするというこ
とも1つの選択肢としてあったのですが、図書館が秋から大規模改修工事
で閉館する予定だったため、今年度についてはなるべく早く行いたいとい
うことで、5月に開催いたしました。

(水谷委員) 戸外で読むことについて何かお気づきになっている課題というか
何か困られたことはありませんでしたか。

(丸尾館長) そうですね。屋外でやるということはやはり、お天気のことをず
っと気にしていないといけないので、危機管理の部分では、急に天気が悪
くなった時どうするのか、警報が出たときにどうするのか、中止の判断は
どの段階でするのか等、気を配っていく必要を感じました。

(寺田利用サービス係長) この「n i w a - d o k u」という企画には2つの
目的がありまして、すでに読書に親しんでおられる方に新たな機会として
場所を提供したいというのが1つと、あともう1つは、普段はそんなに本
は読まないけれど、偶然そこに居合わせたことによって本を手にとって、
そこをきっかけに図書館の利用であったり、文化ゾーンを知っていただい
たりという2つの意図を根底に持っておりまして、その中でさらに切り分
けをしないとイケないのが、大人の利用者の方が心地よいと感じる空間と、
子どもさんが親子連れで自由に規制なくのびのびと読めるというところの

切り分けで、そのあたりを今回は3館で連携するというところで、谷崎の庭は落ち着いた大人向けの読書空間で、美術博物館の庭については自由に好きにやってくださいというような形で切り分けについては意識をしました。やはり、池であったり登れる石があったりというところがありますので、当日は常駐しているスタッフがさりげなく気を配って怪我等もないようにということは心がけました。

(熊本委員) ありがとうございます。

(笹倉委員長) 関連しているものでも、それ以外にもありましたら、お願いします。

(布谷委員) 29年度に予約システムを更新されましたが、そのシステムに関して、利用者からの意見等ありましたか。

(丸尾館長) そうですね、システムが変わったことによるご意見は、良くなったという面と悪くなったという面と両方でいただいております。

(布谷委員) その利用者からの意見を反映して、改めて補正できるという機会はないのですか。例えば字を思いっきり大きくするとか。システムでは、そのようにはできないので、もうしないとか、そういうのがあるのでしょうか。

(丸尾館長) 頂いたご意見については、随時ベンダーとも相談はさせていただくのですが、すぐに対応できるところと時間がかかってしまうところと、あとリニューアルできる時期というのが、年に1回と決まっているのでその時までに変えるか変えられないかという判断を含めて協議していくということになります。

(布谷委員) 初期スタートだったことは、わかるのですが、まず言葉を大事にさせていただきたい。例えば「打出分室」の表記が「打出分館」になっている。初期不良ではないのですか。その状態が放置されているのはおかしいと思います。なぜ、それがシステムを完全移行する前にチェックができなかったのか。移行された時点でわかっておられたのではないですか。そこだけは、チェックミスではないかと思います。

(丸尾館長) そこだけではなく、もう一度確認いたします。

(布谷委員) 以前のシステムでできた検索ができない、例えば、発行年順でデータが残っているのに、受け入れ順で表示される。受け入れ順といえ、運営側の話じゃないですか。発行順で見たくても、邪魔して見られない。確かにアイコンができたりしていてすごく便利なのですが、データがあるのに、なぜその検索はタブで選べないのか、そういうタブを増やすとか、すぐにできるようなこともあるのではないのでしょうか。大規模改修時に対応していただきたいと思います。

また、打出分室の蔵書点検は2日間だったと思うのです。1日は休館日だったのですが、案内では打出分室の蔵書点検の日程が1日だけに見えるのです。横着な表記については、打出分室の利用者からみると、昔、分室閉室の問題もありましたから、すごく、ナーバスになっている方もいらっしゃいます。そここのところはもう少しケアしていただきたい。最近若いスタッフに変わり、打出の伝統や経緯をご存じない方が増えていくので、利用者の感情等、ぜひとも配慮していただきたいと思います。

(丸尾館長) はい。

(笹倉委員長) システム上の問題は対応できるところはできるだけ市民の意見を聞いて速やかにしていただけたらと思います。そのほかご意見はございますか。

(笹倉委員長) 集会行事の部分で、「こどものおはなしの会」の参加人数が41パーセント増加したということですが、41パーセント増加について、何か取り組みがあれば教えていただけますか。素晴らしいと思います。

(丸尾館長) 取り組みとしては昨年度から始めたということではないのですが、おはなしの会に関しては、おはなしカードというものを作りました。参加した子どもさんのカードにスタンプを押して、スタンプがいっぱいになったカードはラミネートして渡しています。常連の子どもが増えて、おはなしの会で顔を合わす子ども同士が仲良く話しているとか、そういうコミュニティができて、良い形で参加者を増やせたように思っています。

(笹倉委員長) 回数が増えたということじゃなくてそういうことなんですね。

(丸尾館長) 回数は変わっていませんが、参加人数は増えています。

(笹倉委員長) コピーサービスのこの数値が気になるのですが、枚数とか収入金額、どのようになっているのでしょうか。

(丸尾館長) コピーの枚数と金額ですが、モノクロとカラーのコピーサービス料金が違います。モノクロが10円、カラーコピーが50円なので、割り切れなくなっています。

(笹倉委員長) わかりました。

(笹倉委員長) よろしいでしょうか。ないようでしたら、図書館本館大規模改修工事についての説明をお願いします。

[事務局より図書館本館大規模改修工事の説明]

(笹倉委員長) ありがとうございます。ただいまの説明について質疑、もしくはご意見がありましたら、よろしくをお願いします。

(布谷委員) あの、大原分室の耐震工事のときは、大原の分室の蔵書は利用で

きませんでした。今回、本館の蔵書に関しては、どういう扱いなのか。
(丸尾館長) 現在開架室に出ている本の大半は別の場所に移動しますので、提供できるものとできないものとに分かれます。提供できないものについては、インターネット上でも基本的に予約がかけられない、大規模改修工事期間中はそのような運用になるかと思えます。

(布谷委員) 市役所北館で貸出するとありますが、開架スペースも設置するということですか。

(丸尾館長) 本の受け入れは継続して行いますので、新しい本も当然、見て、借りていただけたらと思えます。新しく設置予定である仮設窓口にも一部、新刊図書や窓口に戻された本を一時的に置いて借りられるようにしたり、スペースは充分ではありませんが、一定場所を確保して作りたいと思っています。

(布谷委員) ということは、この間実施された蔵書点検とは全く別にスペースの捻出をされるということなのですか。

(丸尾館長) 捻出というよりも工夫して置く場所を作るということに近いと思えます。

(布谷委員) ありがとうございます。大変ですね。

(丸尾館長) 継続するサービスをうまく回していくにはどうしたらいいのか、現在、悩みながら探っているところです。図書館本館は閉館しますが、それに替わる形で本を提供することを念頭に考えて動いていきたいと思っております。

(布谷委員) ありがとうございます。

(笹倉委員長) ほかに、ありませんでしょうか。

(熊本委員) 質問ではないのですが、新しくなるということは、何かアピールをするようなところはあるのでしょうか。図書館が新しくなりますよ、ではなくて図書館が変わる要素ってありますか。

(丸尾館長) 図書館本館は6ヶ月間閉まりますので、施設も以前より快適に過ごせるよう改良改修にも努めたいと思っております。読書環境を整えたいというところでは、以前、笹倉委員長からも照明が暗いことをご指摘いただきましたし、布谷委員から同様のご意見をいただきました。本を読む施設なので、LED化など照明設備を整えたいということと、図書館利用実態調査では椅子や机が少ない、読書スペースを増やしてほしいという要望が多かったので、増築などはできませんが、今ある図書館のスペースを工夫したいと思っています。例えば、備品である椅子や机の数を増やすとか、開架室に読書スペースを設置するなどの改善をしたいと考えております。大々的にアピールできるものはないのですが、以前からいただいていたご要望について、少し

でもお応えできるように変えていきたいと思っております。

(枝元委員) ひとつよろしいでしょうか。

(笹倉委員長) はい、どうぞ。

(枝元委員) 工事に関してなのですが、業者が入りますよね。その時に老婆心で大変失礼な言い方なのですが、きちんとイメージしたものになっているかという確認をしていただくのは大事だと思います。なぜかというところ、最近、建築ラッシュでバブル期に建てた古い図書館を建て直すというのが結構多いのです。そうなったときに見栄えはかっこよくておしゃれでも、使うということを考えてないことが結構多いのです。今回は新規の建物じゃないので、できることは限られていると思うのですが、例えばさっき、委員長と布谷委員が言われたように、LED化して明るくすることは大事なのですが、LED化したらいいのかといいますと、明るさが強烈すぎるので、光の向きなどをちゃんと調整しないと、今度は明るすぎるということになります。業者はそういうことではなく、「照明をつければいい」ということになりますので、光の向きやあたり方も人が座った状態で逐一オーダーを出していくのは、すごく大事なことだと思います。さきほど布谷委員が言われていたシステムの話も全く同じ構造だと思います。業者に仕様書をだすとき、改修とかオーダーをかけられるまでに1回って仕様書だったと思うのです。だからうまくリニューアルできないということになると思うのですが、例えば、名称をつけ変えるのは中に入っているメタデータを切って入れ替えるだけです。そういったいつでもオーダーできるものと検索システムとか、すぐにできないものとすみ分けることを、監視して出していければ、後で「思っていたのと違う」ということにはなりにくいと思います。

(布谷委員) 例えば、阪急電車の照明はLED化が進んでいるのですが、電車によっては照明がすごく青くて、本が読めないぐらい気分が悪くなる照明があります。色温度っていうのですが、4800Kとか6000Kとかにしたら青くて見えないのですよ。色温度を2400Kとか2800Kぐらいにしたら、白熱灯みたいな蛍光灯みたいな感じになるのですけれども、そうすると若干、図書館って暗いのです。程合いというものを考えていただきたいと思います。

(枝元委員) あたり方、光の強さ、色合いと同時にあてる角度ですね。

(笹倉委員長) 枝元委員が言われたのですが、建設、施工されている業者が図書館建築とか建設、施工、内部のリニューアル、そういう専門的な業者でない方が多いわけです。例えば図書館の中で西日がすごく、1年半か2年で本のタイトルが読めなくなるとかですね、図書館の事を全然知らない業者が建てた図書館がいっぱいあります。だから本当にチェック機能と

いうのはすごく大切なことだと思います。

(山田委員) 半年間の工事期間中、市役所のほうに開設ということですが、土日、祝日はやっていないということで、かなり利用者数は限られてくるのかなと思うのです。閉館中、市役所に場所を移すという以外に読者のニーズと言いますか、そういったものを惹きつけておく、そのための図書館の取り組みが別にあるようでしたら教えていただけますか。

(布谷委員) 同じことを聞こうと思っていました。

(丸尾館長) 図書館サービスは維持するのですが、土日祝が利用できなかったり、提供できる時間が少なくなることもありますので、代替でやれることはないか、協議をしているところです。図書館施設が使えないという縛りがありますので、最終的にどうしていくのか、引き続き考えていきたいと思っております。

(笹倉委員長) 土曜日、日曜日、祝日の休みは決定ですね。

(丸尾館長) そうですね。

(布谷委員) 分室は運営自体を委託されているじゃないですか。例えば祭日開いていない部分を開けるということもできないのですか。

(丸尾館長) そうですね。

(布谷委員) 業務委託の絡みがあるのでそこに併存ができない、と。

(丸尾館長) 業務委託の絡みもそうなのですが、施設管理が各館で違いますので、開いている時間やお休みの日というのが各施設で決められています。

(笹倉委員長) 半年間ですから長いですね。

(丸尾館長) はい。

(布谷委員) 大原でも長かったのですけどね。枝元委員も心配されていましたが、大原分室は改善されて良くなりました。衛生的、かつ明るくなって、悪いところは何もないです。

(笹倉委員長) 以前から言いたくて、控えていたのですが、今の時代、トイレは洋式が当たり前だなど。図書館で授業をすることがあるのですが、私の大学も3年前までトイレが旧式だったのですね。すると、女学生が外のトイレを使うのです。今は和式トイレは、子どもも大人もあまり使わないのではないかなど。改修されることになって、良かったと思います。

(布谷委員) 外壁の補修とありますが、庇の部分を改善していただけますか。雨の日にブックポストを利用する時、水がかかったりします。

(丸尾館長) そうですね。樋が詰まって雨漏りになってしまうということも起きているので日々の施設チェックも含めて、確認いたします。

(布谷委員) 関連してないのですが、中庭はなにもさわらないのですか。

(丸尾館長) 中庭をさわるといいますと、例えば屋根が付くとかそういうこと

でしょうか。

(布谷委員) 例えば、人工芝にして子どもさんが遊べるようにするとか。

(丸尾館長) 今のところ、その予定はないのですが、以前庭でも本が読めるようにテーブルや椅子であったり、パラソルを出していたのですが、もうぼろぼろで使えない状態になっていまして、一部庭に出しているものについては、今でも結構利用されています。ぼろぼろのテーブルで申し訳ないのですが、気候の良い時は外に出て、本を読んでいらっしゃるので、取り替えてきれいな備品を揃えたいと考えています。

(布谷委員) いわゆる常設のプチ「n i w a - d o k u」みたいな感じじゃないですか。

(丸尾館長) あの場合は、日常的に「n i w a - d o k u」してもらえるようにはしたいので、机と椅子はきれいなものにしたいと思います。シンボルツリーもありますし、木が伸びたら日陰にもなって心地よいスペースでもありますので。

(笹倉委員長) つり天井を改修される、ということなのですか、どこの部分ですか。

(丸尾館長) 一階の開架室の奥になります。耐震化工事をします。

(布谷委員) 照明が変わるのではないですか。

(丸尾館長) 照明も部分的にデザインも残したりしますが、改修予定になっております。

(笹倉委員長) せっかくの機会ですので、その他について何かご意見がありましたらよろしくお願いします。

(熊本委員) よろしいでしょうか。

(笹倉委員長) はい、どうぞ。

(熊本委員) 直接関係ない話かもしれないのですが、先月、明石市の図書館を見に行ったのです。確かに広いですし、本も多く、書店と一緒にあって、その本も合わせてお茶が飲めるスペースもあり、本も消毒できて、駅からも近くて雨に濡れずに行けます。でも、私には図書館とは思えませんでした。ビルの中の一室の最新の設備ですが、私は芦屋の図書館に帰ってきて、「不便だけど、これがいいな」と。すごく落ち着いて、とても素敵だなと思えたのです。今回、工事をなされた後、半年以上の空白はすごく長いので、図書館離れ、特に幼稚園や小学校の子どもたちが来ているのが来られなくなるというのは大きいのではないかという気がするのですが、この期間に、「変わったらこんな風になるよ、こんなことをするよ。」というアピールを今からどんどん考えていけると思います。この「n i w a - d o k u」のゾウさんもすごく可愛いですよ。こういうのもあって、

「ゾウさんが待っているよ。」とか、上手にどんどんアピールして下さったら、ありがたいと思いますし、子どもだけではなくて、朗読など「あし笛」に何かできることがあればお手伝いもしますし、色々な企画を春に向けてしていただけたら嬉しいなと思います。

(丸尾館長) ありがとうございます。

(枝元委員) よろしいでしょうか。どこの自治体も、今、業務委託化、あるいは書店が直に運営するということがあって、利用者から見ると非常に居心地が良くて便利なのですね。明るくて古臭くなくて、行ってわくわくして楽しい場所に一気に生まれ変わるのです。ただし、私が気になるのは、そうなることによって、犠牲になっている人たちがいるということです。何かの犠牲の上に成り立っている居心地の良さを盲目的に享受することって傲慢だなと見えてしまって仕方がないのです。ですからそこは、諸手を挙げて良いことだとは言にくいと個人的には思っています。この改修の間だけ子どもたちを惹きつけておくために、例えば、地元の小学校と連携して総合学習の中で郷土資料を使いながら芦屋の歴史とか芦屋を足がかりにして、関西の地域学習ということに広げていく。そうすると物理的に図書館が使えなくても図書館が持っている書誌情報を授業に使って作るということが可能ですので、そんなことでも繋ぎながらやっていただくのもひとつの手かなと思います。郷土資料室は絶対に無くさないでください。業務委託を受けた図書館が郷土資料室を販売コーナーにしたという例もあります。どうかそうならないようお願いいたします。

(笹倉委員長) ほかに何かございませんでしょうか。

(布谷委員) 最近、NHKで移動図書館の番組を放送していたのをご覧になりましたか。芦屋のように、ある程度現状の形を残して、業務だけ民間委託されているのはすごくいい体制だと思います。講演会でも芦屋に縁のある方を呼ばれたり、また文化ゾーンの連携もされているのに、もし民間委託になったら、それこそ今までのコアなユーザーはいなくなり、本当にテンポラリーなショッピングモールみたいになって、一気に寂れて、じゃあ潰そうかとなるのが目に見えるのです。私が保守的ななのかもしれないですが、今の良さを絶対に捨てて欲しくないです。

(枝元委員) よろしいでしょうか。NHKの番組で移動図書館のことが取り上げられていました。あれ自体、いい取り組みだという趣旨で放送されていましたが、いわゆる図書館人がやっていないのではないかと。どうしてかといいますと、利用者と読書歴が前面に出てしまっている。図書館が取材に応じているのに、そこを配慮するというバイアスが一切かかってないという話なのです。守秘義務とか利用者の利用履歴という伏せなくてははいけ

ない第一事項が前面に出てしまっている。保守的な図書館員の間から見たらそう見えるのかもしれませんが。そうではない人から見れば「良いことだ」と言えるのかもしれませんが、今風に流れていくと、図書館としての組織運営が成り立たなくなってしまう。ただし、移動図書館のドキュメントをみて「いいな」と思う人たちは多々いるし、私もそう思っているのです。ですから、そのあたりは運営していく立場と一視聴者・利用者としての視点とを一緒にしないことが大事ではないかと思います。

(笹倉委員長) 私も観ましたが、やはり利用者側のドキュメントであれば、いい意見ばかりを取りますから、なかなか難しい面があると思います。個人のプライバシーやいろいろな問題がたくさんあるのに、誰がどんな本を借りたかをずっと紹介していました。移動図書館は司書がああでもない、こうでもないといいながら、本を積むなどの作業をしているわけですが、そういう専門的な部分は映さなかったし、利用者がどんな本を希望しているのかは、普段接している図書館員が一番よく知っていることです。「図書館の自由に関する宣言」などがありますが、あのような映像をあのまま映してしまうと知らない人は「ああ素晴らしいな」で通ってしまう。「図書館とは何か」ということを考えていくと、専門家なら誰でも疑問に思うのです。図書館というところは、民主主義の牙城です。安易な経営へ図書館がどんどん流れていく傾向にある、私はそういう気持ちで観たのですが。

(布谷委員) かつては、芦屋にも自動車文庫というものがありました。この本館が大規模改修工事で半年間閉まるので、古くからの利用者の中に、「自動車文庫があれば巡回してほしい。」ということをあ番組でリフレインされる方がいらっしゃるのではないかと、それを認識していなければ、そのような意見が出たとき図書館も困るだろうと思いましたので。

(笹倉委員長) ほかにご意見はありませんか。それではこれをもって図書館協議会を閉会させていただきます。

以上